

一般的な「リベラルアーツ教育」の理念

・人間の自由な思考や行動を制限するのは、狭い知識や経験の不足に起因するものであるので、広く、深く学問することによって人間をこの制限から解放することが、リベラルアーツ教育の基本的な考え方である。したがって、幅広い知識や技術の教育、生涯にわたって学び続ける態度の育成、批判的に考える習慣などが、リベラルアーツの教育活動に色濃く反映される。

・リベラルアーツ教育を支えるのは、基本的なディシプリンの集合体である。ディシプリンとはそれとしての対象と方法を有する学術である。異なるディシプリンで異なるアプローチを学ぶと複数のアプローチを学ぶことになるので、発想や思考が柔軟になり、様々な問題を考えるための基礎（思考や行動の習慣）ができる。

・整理整頓された知の体系を身につけるので、自分の思考に自信が宿り、心が鍛えられ強くなり、知的作業を行えるようになる。自分の知っていること、知らないことについて謙虚になり、重要なこととそうでないことを見分け、聞き分け、新しい事象については、新しい概念やことばで理解できる。これは、幅広く深い教育によって身につけられる力である。

・リベラルアーツ教育を通して、確固たる伝統的な知の体系とその技法を修得すると、新しい事象に取り組むときに類推で考える能力を有するようになる。未知のことを、既知のことで応用して説明しようとするからである。これもリベラルアーツによる学びの産物である。リベラルアーツが「いかに考えるか、いかに生きるかを教える教育である」と言われる所以である。

リベラルアーツカレッジの典型

カレッジの構成

1. カレッジという大きな傘の下に、教育研究の各部やセンターなどが置かれている。
2. 伝統的なディシプリンとして認められている領域はデパートメント（独立部門）として設置されていることが多い。哲学、言語学、文学、歴史学、人類学、地理学、心理学、社会学、法学、政治学、経済学、数学、物理学、化学、生物学、地学など。
3. 比較的新しい領域で、ディシプリン間で学際的、総合的に扱う分野であっても独自性が強いとているものは、ディパートメントとして設置されていることもある。コミュニケーション学、情報学など。
4. 社会の変化に合わせて横断的、学際的に取り組む新しい領域は、「インターディシプリナリースタディーズ」や「センター」として置かれている。ジェンダー研究、地域研究、グローバル研究、高齢化問題センターなど。

学士課程の組み方

1. 一般教育は、各ディシプリンの基礎的な科目群の中から指定して履修させる。人文科学系のディシプリンの基礎科目から～単位、社会科学系の基礎科目から～単位、自然科学系の基礎科目から～単位、など。
2. 専門教育は、メジャー、マイナーなどの履修体系を指定して履修させる。学際的なプログラムも、メジャー相当そして認めることもある。
3. 一般教育、専門教育、必要な総単位数、GPAなどの要件を満たし、学位を取得する。学位の出し方は、Arts か Sciences の Bachelor となるので、例えば、Bachelor of Arts in History とか、Bachelor of Sciences in Chemistry という形になる。従って学位はあくまでも学士であり、それは文芸領域か、科学領域で、ディシプリンを修めた者という証明となる。

分野		専攻	
I	言語・文学	1 2 3 4 5 6 7	英語学・英文学 中国言語文化 日本語日本文学 日本語教育 言語学 コミュニケーション学 現代・世界文学
II	人文科学	8 9 10 11 12 13	キリスト教学 宗教学 哲学 倫理学 文化人類学 歴史学
III	地域研究	14 15 16	アメリカ地域研究 アジア地域研究 日本地域研究(副専攻 in E & C)
IV	社会科学	17 18 19 20 21 22 23 24	国際関係 国際協力 社会学 国際経済 ビジネスエコノミクス 公共政策 メディア(ジャーナリズム) 博物館学
V	心理・教育	25 26	心理学 教育学(教職教育)
VI	数学・理科	27 28 29 30 31	数学 物理学 化学 生物学 地球科学
VII	情報・環境	32 33	情報科学 環境学

現在のリベラルアーツ学群 7つの分野、33のメジャー

入試

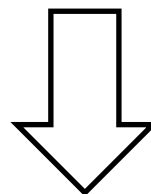
・分野、専攻は問わない。リベラルアーツ学群として950名。

卒業要件

- ・基礎教育科目42単位
(コア科目16単位、外国語科目8単位、基盤教育科目18単位)
- ・専攻科目62単位(専攻プログラムの要件を含む)
- ・自由選択科目20単位
- ・合計124単位以上、GPA1.5以上

学修の方法

- ・LAセミナーやコア科目など基礎基盤の科目から履修を始めて、時間をかけて専攻を決める。
- ・4学期目に専攻の登録を行う
- ・メジャーとマイナーの組み合わせ、ダブルメジャーの組み合わせなどの体系が可能である。



Arts & Sciences
Late Specialization
Independent Learner

課題

- 入試に関する質問に対する明確な説明。高校生や高校の先生、保護者や一般社会から見たLA学群の理解。
- ・リベラルアーツ学群の教育目的達成のための基盤教育のありかた
 - ・大学の「専攻」としての客観的な質や量の保証
 - ・メジャーやマイナーに登録する学生数、及び、各授業の履修希望者数の管理
 - ・開講すべき科目数や授業数設定、必要な教員数、教室数の準備等
 - ・適切なアカデミックアドバイジングの仕組み
 - ・認証評価(学校教育法、私学法、大学設置基準、大学基準協会、高等教育評価機構、学位授与機構などの評価)の基準に対する取り組み

学類を導入したリベラルアーツカレッジの場合

大学院																		
Level 400																		
Level 300																		
Level 200																		
Level 100																		
DPRTMNT or DSCPLN	哲学	言語学	文学	歴史学	〇〇学	〇〇学	社会学	経済学	政治学	心理学	〇〇学	〇〇学	数学	物理学	生物学	化学	〇〇学	〇〇学
学類	人文科学 収容〇〇人						社会科学 収容定員〇〇人						自然科学 収容定員〇〇人					

	哲学、言語学、文学、歴史学など
	社会学、経済学、政治学、心理学など
	数学、物理学、生物学、科学など
	国際関係、地域研究、コミュニケーション学など
	環境学、情報社会学など

- ・興味関心を明らかにしたアドミッション、学類化による入学定員、収容定員の管理
- ・学群教育で行う基盤教育や一般教育、学類教育で行う専門教育
- ・ディシプリンに基づく伝統的な縦構造の学びの体系、ディシプリンを横断的に組み合わせた現代的、学際的な学びの体系
- ・ディシプリンごとに異なる対象や方法、広く、深く履修させる学び
- ・学類の種類と規模に合わせた科目の配列、科目数、開講授業数、教員数などの設定、及び、教育内容の質と量の保証
- ・学類の種類と規模に沿った、教育環境の整備
- ・法令、認証評価への対応
- ・社会に対する明確な説明

一般的な「リベラルアーツ教育」の理念

・人間の自由な思考や行動を制限するのは、狭い知識や経験の不足に起因するものである。で、広く、深く学問することによって人間をこの制限から解放することが、リベラルアーツ教育の基本的な考え方である。したがって、幅広い知識や技術の教育、生涯にわたって学び続ける態度の育成、批判的に考える習慣などが、リベラルアーツの教育活動に色濃く反映される。

・リベラルアーツ教育を支えるのは、基本的なディシプリンの集合体である。ディシプリンとはそれとしての対象と方法を有する学術である。異なるディシプリンで異なるアプローチを学ぶと複数のアプローチを学ぶことになるので、発想や思考が柔軟になり、様々な問題を考えるための基礎（思考や行動の習慣）ができる。

・整理整頓された知の体系を身につけるので、自分の思考に自信が宿り、心が鍛えられ強くなり、知的作業を行えるようになる。自分の知っていること、知らないことについて謙虚になり、重要なこととそうでないことを見分け、聞き分け、新しい事象については、新しい概念やことばで理解できる。これは、幅広く深い教育によって身につけられる力である。

・リベラルアーツ教育を通して、確固たる伝統的な知の体系とその技法を修得すると、新しい事象に取り組むときに類推で考える能力を有するようになる。未知のことを、既知のこととで応用して説明しようとするからである。これもリベラルアーツによる学びの産物である。リベラルアーツが「いかに考えるか、いかに生きるかを教える教育である」と言われる所以である。

リベラルアーツカレッジの典型

カレッジの構成

1. カレッジという大きな傘の下に、教育研究の各部やセンターなどが置かれている。
2. 伝統的なディシプリンとして認められている領域はデパートメント（独立部門）として設置されていることが多い。哲学、言語学、文学、歴史学、人類学、地理学、心理学、社会学、法学、政治学、経済学、数学、物理学、化学、生物学、地学など。
3. 比較的新しい領域で、ディシプリン間で学際的、総合的に扱う分野であっても独自性が強いとされているものは、ディパートメントとして設置されていることもある。コミュニケーション学、情報学など。
4. 社会の変化に合わせて様々な横断的、学際的に取り組む領域は、「インターディシプリナリースタディーズ」や「センター」として置かれている。ジェンダー研究、地域研究、グローバル研究、高齢化問題センターなど。

学士課程の組み方

1. 一般教育：各ディシプリンの基礎的な科目群の中から指定して履修させる。人文科学系のディシプリンの基礎科目から～単位、社会科学系の基礎科目から～単位、自然科学系の基礎科目から～単位、など。
2. 専門教育：メジャー、マイナーなどの履修体系を指定する。学際的なプログラムも、メジャー相当として認めることもある。
3. 一般教育、専門教育、必要な総単位数、GPAなどの要件を満たし、学位を取得。学位の出し方は、Arts か Sciences の Bachelor となるので、例えば、Bachelor of Arts in History とか、Bachelor of Sciences in Chemistry という形になる。従って学位はあくまでも学士であり、それは文芸領域か、科学領域かという区分である。